

去勢牛の肥育に草の利用を — 自給飼料の多給による去勢牛肥育試験より —

和牛試験場

飼料を自給し、安価な生産費をもって肉質も低下しないような経済的肥育事業を目標として、その方法なり肥育程度を、仕上りより判断して検討してみました。

概要

(1) 壮令去勢牛6頭を供用し、粗飼料は何処でも手にはいる野草を1期、2期に多給して約5カ月の肥育を行なった。飼料は、普通慣行の肥育に対し、1期1/3、2期1/2の濃厚飼料を与え、T・D・Nを同一価にとり、3期を慣行量にもどし給与して、枝肉検査までの調査を行った。

(2) 増体成績 (単位 kg)

(3) と殺枝肉成績 (単位 kg)

(4) 収支概算

(5) 増体率では勿論対照牛の方が成績がよい。一般に牛舎の不備から尿アンモニアの発生のため余り増体成績はよくなかった。

(6) 粗飼料(野草)は初期の軟かい内はよく食べたが、硬くなってから草根部の残食がありこれ以上の採食は不可能である。(粗飼料体重比最高7.8%)

(7) 飼料費は勿論対照牛の方が7,000円方高かった。1kg当りの増体で20円位、1日50円方試験牛の方が

区分	牛No.	1期	2期	3期	全期間			1日平均増体量	増体率 [%]	備考
					開始時体重	終了時体重	増加量			
試験区	2	35	44	56	315	450	135	0.951	42.9	
	5	45	30	49	307	431	124	0.873	40.4	
	6	40	48	41	314	443	129	0.908	41.1	
	平均	40	41	49	312	441	129	0.911	41.3	
対照区	1	65	82	10	307	464	157	1.106	51.1	
	3	40	49	44	317	450	133	0.937	42.0	
	4	43	67	66	340	516	176	1.239	51.8	
	平均	49	66	40	321	477	155	1.094	48.3	

区分	牛No.	体重		枝肉量 ^{kg}	歩止 [%]		枝肉当替 ^円	肉概評	脂肪状況
		試験終了時 ^①	と殺前 ^②		③÷①	③÷②			
試験区	2	450	411	245	54.4	59.6	322	B+	B+
	5	431	381	237	51.7	58.5	336	A-	B+
	6	443	384	227	51.2	59.1	339	B+	B+
	平均	441	392	232	52.6	59.2	332		
対照区	1	464	423	270	58.1	63.8	289	A-	A-
	3	450	410	245	54.4	59.8	331	B+	B+
	4	516	469	276	53.5	58.8	326	A-	A
	平均	477	434	264	55.3	60.8	315		

区分	牛No.	収入 (販売価格) ^円	支出			差引粗収益 ^円
			素牛購入格 ^円	飼料費 ^円	計 ^円	
試験区	2	79,000	43,000	18,530	61,530	17,470
	5	75,000	41,000	17,797	58,797	16,203
	6	77,000	41,000	18,904	59,904	17,096
	平均	77,000	41,667	18,410	60,077	16,923
対照区	1	78,000	44,000	25,809	69,809	8,191
	3	81,000	43,000	24,586	67,586	13,414
	4	90,000	43,000	26,806	69,806	20,194
	平均	83,000	43,334	25,734	69,067	13,933

岡山畜産便り 1960.10

安くすんでいる。

- (8) と殺成績で歩止は対照牛がよいが、枝肉のkg当り替値では試験牛の方が生体取引のためかえって高く売れている。
- (9) 肉質、脂肪等の状況も対照牛の方が総体的によく、試験牛3頭の内2頭が軽度の黄色を帯びたものが出たが、これは青野草多給与のせいかどうか判明しない。
- (10) 収入概算では試験牛の方が約平均 3,000円方よい結果になった。これは勿論青野草の利用による生産コスト引下げのためである
- (11) 去勢牛のような粗飼料の利用性に富んだ肥育を行なう場合、この程度或は採食能力さえあれば、これ以上多給しても肥育が可能であり、又生産費も安くなり、仕上がりにも左程大きな影響がないと思う。従って厚勢の肥育

には野草の長期利用は大いに推奨してよいと考える。

(嘉寿記)